
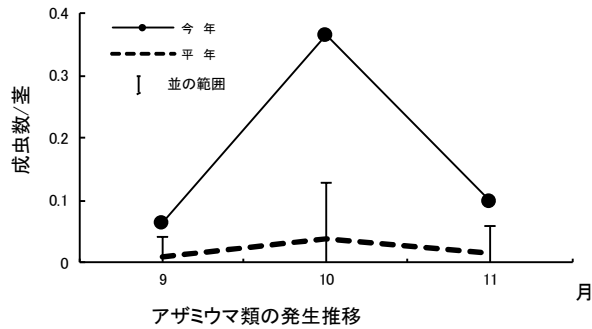


| | | | |
|-------------|------------|---------------------------------------|---|
| 作物 | 小ギク(年末出荷用) | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ① アザミウマ類 | |  |
| 11月の発生量(現況) | やや多 | | |
| 12月の増減傾向 | ↓ | | |
| 増減傾向の根拠 | | 今後1か月の気温が低い見通しから、11月より発生量は減少すると考えられる。 | |

発生量の根拠(調査結果)

- ・ 11月下旬の調査の結果、茎当たり成虫数は0.1頭(前年0頭、平年0.1頭未満)と平年よりやや多かった。
- ・ 発生種は、クロゲハナアザミウマであった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

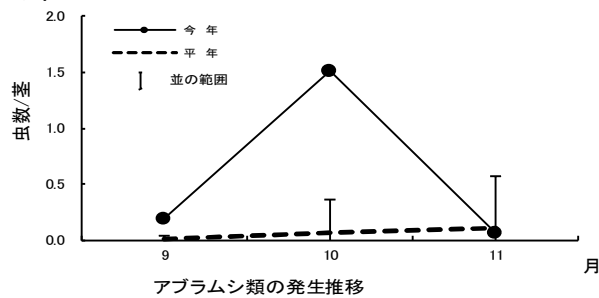
- ・ 成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上～中位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・ 同一ほ場内にあるキクは、異なる品種、異なる生長段階であっても、同時に防除を行う。
- ・ 地際部から新しく出てきた脇芽は、アザミウマが増殖しやすいので、早めに除去する。

| | | | |
|-------------|--|----|---|
| 作物 | 小ギク(年末出荷用) | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | アブラムシ類 | |  |
| 11月の発生量(現況) | 並 | | |
| 12月の増減傾向 | ↓ | | |
| 増減傾向の根拠 | 今後1か月の降水量が多い見通しから、11月より発生量は減少すると考えられる。 | | |

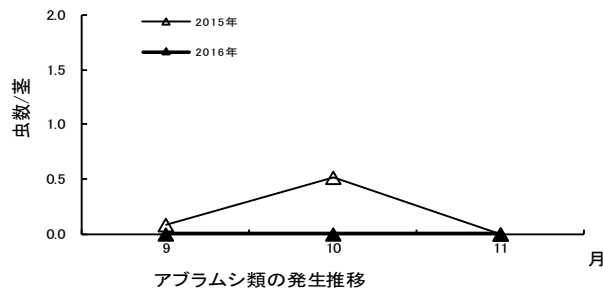
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 11月下旬の調査の結果、茎当たり虫数は0.1頭(前年0頭、平年0.1頭)と平年並であった。
- ・ 発生種は、ワタアブラムシであった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

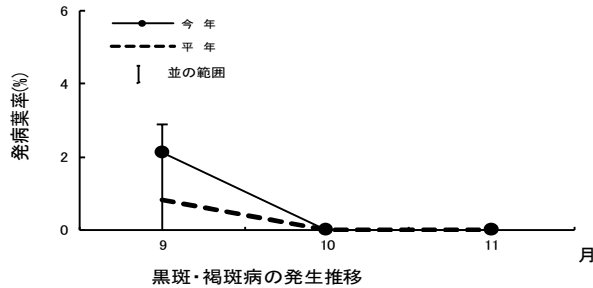
- ・ ほ場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源になるので除草を行う。
- ・ シルバーポリテープを畦上に張り出すか吊したり等して有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ・ 増殖が早いので、新葉や上位葉に多いことに留意し、早期発見・早期防除に努める。

| | | | |
|-------------|---------------------------------------|----|---|
| 作物 | 小ギク(年末出荷用) | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | 黒斑病・褐斑病 | |  |
| 11月の発生量(現況) | (発生なし)並 | | |
| 12月の増減傾向 | ↘ | | |
| 増減傾向の根拠 | 今後1か月の気温が低い見通しから、11月より発生量は減少すると考えられる。 | | |

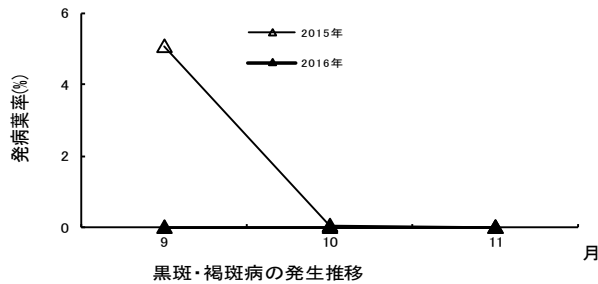
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 11月下旬の調査の結果、発病葉率は0%(前年0%、平年0%)と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

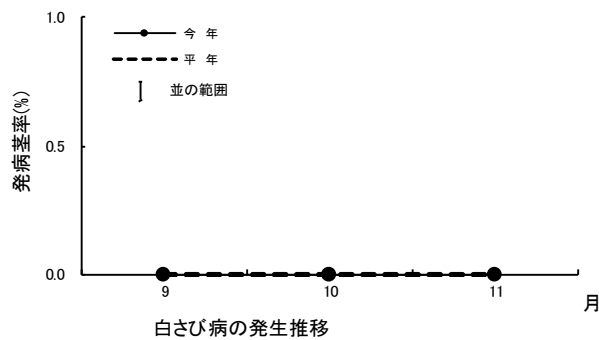
- ・ 発病葉や摘葉等による残渣は発生源となるため、ビニール袋などに入れるなどして早めにほ場外に持ち出し処分する。
- ・ 除草などにより、ほ場の通風をよくする。
- ・ 水滴の跳ね上がりを防止するため、敷草を行う。

| | | | |
|-------------|---------------------------------------|---|------|
| 作物 | 小ギク(年末出荷用) | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | 白さび病 |  | |
| 11月の発生量(現況) | (発生なし)並 | | |
| 12月の増減傾向 | ↗ | | |
| 増減傾向の根拠 | 今後1か月の気温が低い見通しから、11月より発生量は増加すると考えられる。 | | |

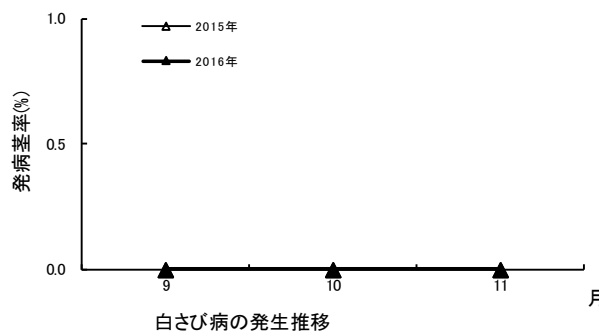
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 11月下旬の調査の結果、発病茎率は0%(前年0%、平年0%)と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

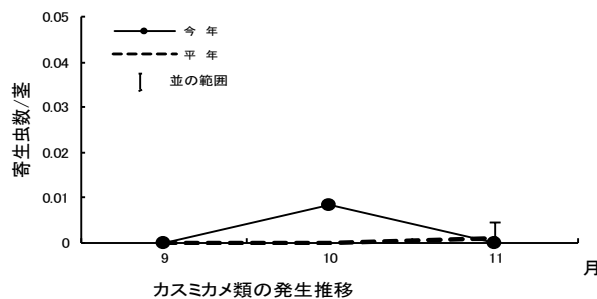
- ・ 多湿条件下で発生するので、不要な下葉、脇芽は除去し、通風をよくする。
- ・ 発病葉は除去し、ビニール袋に入れるなどしてほ場外に持ち出し、焼却などの処分を行う。
- ・ 発生時期には予防散布を行うとともに、葉をよく観察し初期発生を見逃さない。
- ・ 防除効果を高めるため、薬剤耐性菌が発現しないようローテーション散布を行う。
- ・ 栽培終了後は近隣ほ場や次作の発生源にならないよう、不要な株は速やかに処分する。

| | | | |
|-------------|---------------------------------------|---|------|
| 作物 | 小ギク(年末出荷用) | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | カスミカメ類 |  | |
| 11月の発生量(現況) | (発生なし)並 | | |
| 12月の増減傾向 | ↓ | | |
| 増減傾向の根拠 | 今後1か月の気温が低い見通しから、11月より発生量は減少すると考えられる。 | | |

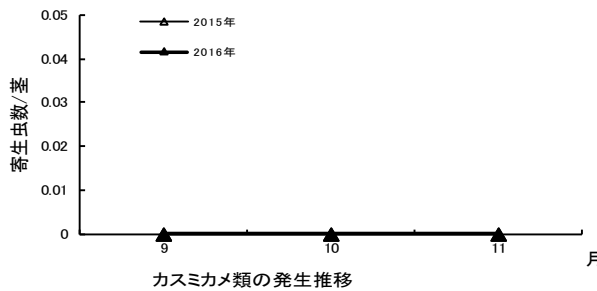
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 11月下旬の調査の結果、茎当たり寄生虫数は0頭(前年0頭、平年0.1頭未満)と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

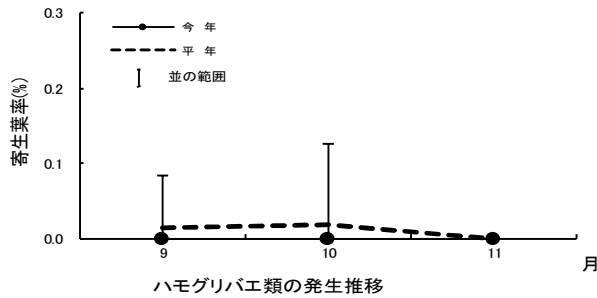
- ・ ウスモンミドリカスミカメなどの発生が知られる。
- ・ 成虫は夜間、電照用白熱球に誘引される。
- ・ 親株等の開花したキクは発生源になるので、開花させずに早めに耕起を行う。
- ・ 薬剤による感受性は高いが、次々と飛来するため、防除効果は上がりにくい。

| | | | |
|-------------|---------------------------------------|----|---|
| 作物 | 小ギク(年末出荷用) | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ハモグリバエ類 | |  |
| 11月の発生量(現況) | (発生なし)並 | | |
| 12月の増減傾向 | ↓ | | |
| 増減傾向の根拠 | 今後1か月の気温が低い見通しから、11月より発生量は減少すると考えられる。 | | |

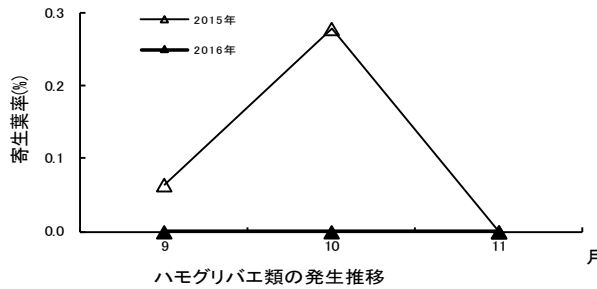
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 11月下旬の調査の結果、寄生葉率は0%(前年0%、平年0%)と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

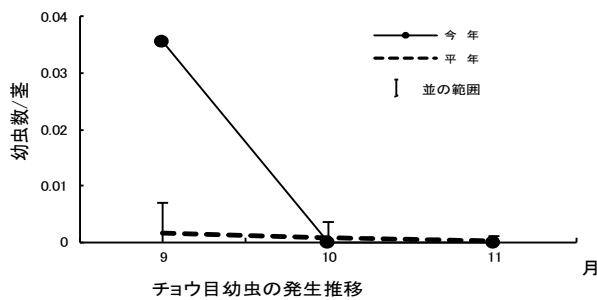
- ・ ほ場内外のウリ科・ナス科・マメ科などの雑草は発生源になることから、除去する。
- ・ 幼虫期間が比較的時間が短いので、葉の表面に産卵痕や食害痕がみられたら防除を開始する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 農薬やその他の防除資材の効果の判定は幼虫の体色で判定する。
- ・ 生存時の幼虫の体色は黄色で、死亡すると黒変する。

| | | | |
|-------------|---------------------------------------|---|------|
| 作物 | 小ギク(年末出荷用) | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | チョウ目幼虫 |  | |
| 11月の発生量(現況) | (発生なし)並 | | |
| 12月の増減傾向 | ↘ | | |
| 増減傾向の根拠 | 今後1か月の気温が低い見通しから、11月より発生量は減少すると考えられる。 | | |

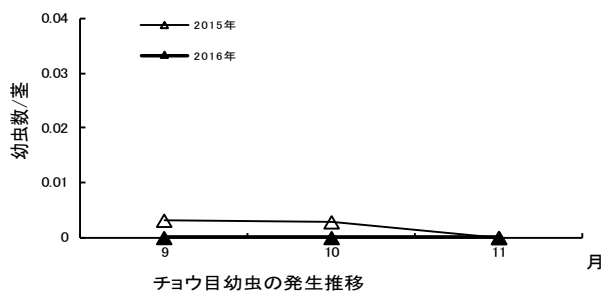
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 11月下旬の調査の結果、1茎当たり幼虫数は0頭(前年0頭、平年0頭)と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

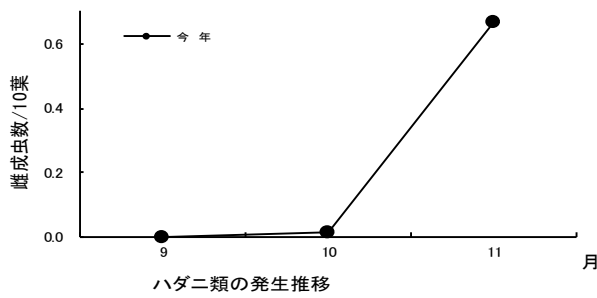
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 老齢幼虫では薬剤効果が低下するので、若齢幼虫期のかすり状被害を確認したら速やかに防除を行う。

| | | | |
|-------------|--|---|------|
| 作物 | 小ギク(年末出荷用) | 地域 | 沖縄群島 |
| 病害虫名 | ハダニ類 |  | |
| 11月の発生量(現況) | 判定不可 | | |
| 12月の増減傾向 | ↓ | | |
| 増減傾向の根拠 | 今後1か月の降水量が多い見通しから、11月より発生量は減少すると考えられる。 | | |

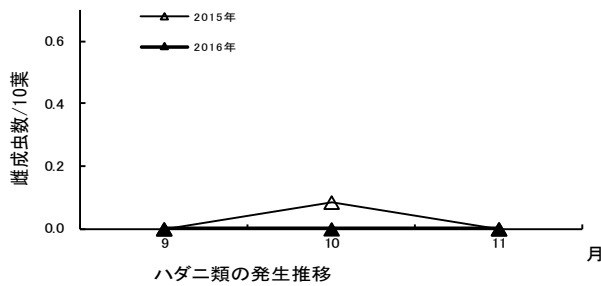
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 11月下旬の調査の結果、葉当たり雌成虫数は0.7頭(前年0頭)であった。
- ・ 発生種は、ナミハダニ(黄緑型)であった。

(今年のデータ)



(過去2年のデータ)



防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。